

## 議会運営委員会

令和4年4月18日（月曜日）午前10時00分開会

### 出席委員（8名）

委員 長	齊藤 誠之	副委員 長	星 宏子
委員	山形 紀弘	委員	中里 康寛
委員	森本 彰伸	委員	鈴木 伸彦
委員	小島 耕一	委員	大野 恭男

### 欠席委員（なし）

### オブザーバー（4名）

議 長	松田 寛人	副 議 長	相馬 剛
議会活性化 特別委員長	益子 丈弘	議会活性化 特別副委員長	星野 健二

### 説明のための出席者（2名）

公益財団法人 日本生産性 本 部	鎌田 朋宏	公益財団法人 日本生産性 本 部	田中 優磨
------------------------	-------	------------------------	-------

### 出席議会事務局職員

事務局 長	増田 健造	議事課 長	相馬 和男
議事課長補佐 兼庶務係 長	印南 恵子	議事調査係 長	長岡 栄治
主 査	飯泉 祐司		

### 議事日程

1. 開 会
2. 挨 拶
  - ・委員長
3.
  - (1)取組のあらまし
  - (2)「地方議会成熟度評価モデル」について
  - (3)質疑応答
  - (4)その他

4. その他

5. 閉 会

開会 午前10時00分

◎開会の宣告

○齊藤委員長 皆さん、改めましておはようございます。

本日は議会運営委員会のほうお集まりいただきましてありがとうございます。

◎委員長挨拶

○齊藤委員長 先週に引き続きでちょっと回数が多くて申し訳ないんですけども、この間、話させていただいたとおり、今回、このタイトルにあるとおり、地方議会の成熟度評価モデルということで、本日、日本生産性本部の鎌田さんと田中さんのほうに那須塩原市議会のほうにお越しいたきましてありがとうございます。

昨年度というよりは、昨年度でいいのか。相馬委員長のときにも私正副で2回ほど聞かせていただいたんですが、今後、那須塩原市議会、今、事務事業評価等は自分たちで行っている部分もあるんですが、今回も取組実行計画のほうに上げさせていただきます。事務事業評価の見直しということで、外部シンクタンクを導入していく。あるいはそういったものがあれば、それをシステム化して行って、さらなる向上を図っていくためには、どういったものがあるのかということで、改めてまた今回、御説明いただこうと思っております。

議会運営委員会の皆様におかれましては、説明を聞いていただきまして、自分たちのその評価システムにおいて、どのように有意的になるかというところの議論も御質問等していただければと思いますので、よろしくお願いいたしますと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

◎地方議会成熟度評価モデルについて

○齊藤委員長 それでは、次第に沿って進めさせていただきますと思います。

それでは、いいですか。ここからは鎌田さんのほうにお任せしてよろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

○鎌田氏 よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って今日は取組のあらましということで、我々の生産性本部はどういうところだろうという方もいらっしゃると思ひまして、ちょっとそんな初めは我々の自己紹介的なお話をさせていただいた後、成熟度評価モデル、これがどんなことでつくられたかというところ、その後、地方議会成熟度評価モデルの動画が2つございまして、議会プロフィールというものと成熟評価モデルの本丸の16項目と評価一覧でございますので、こちらのほうを御説明をまずはさせていただきたいと思っております。それが2番目の地方議会成熟度評価モデルについてというところでございます。その後、質疑応答、意見交換というような形でちょっと色々お話を伺わせていただきながら、また、御理解を深めていただければというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

まず、私のほうから取組のあらましということからちょっとお話をさせていただきたいと思ひます。

使う資料は、地方議会成熟度評価モデルの御説明という資料、それから、皆様のほうにお配りを

させていただいております議会プロフィール一覧がございます。それと、こちらの地方議会成熟度評価モデルのガイドブックというものがございしますので、当面はこのガイドブックを御覧になっていただきながら、少しお話を進めていきたいと思っております。

こちらのガイドブックでございますが、現在編集集中で、最終校正を今しております、今お配りをさせていただいているのは、その前のものがございますので、ちょっと今後、こちらのほう少し内容の文言等変更等が生じる予定でございますので、完成いたしましたら、改めまして皆様のお手元のほうに配信というような形で事務局様にお渡しをしたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

それでは、まず、地方議会評価モデルの説明という資料のほうから少し触れていきたいと思っております。

まず、初めなんです、この地方議会成熟度評価モデルという今から1年半ぐらい前ですかね、1年ちょっと前なんです、御説明をさせていただいたことがあるんですが、お話を聞いたことがある方はどれぐらいいらっしゃいますか。半分ぐらいですかね、イメージとしてはね。分かりました。じゃ、半分ぐらいの方は、ああ、そんなこともあったねということでそうだったねと思っていただければと思います。初めての方は、ちょっと我々どんなものかといったようなことも含めて、少しお時間を頂戴したいと思います。

公益財団法人日本生産性本部でございますが、こちらの資料のところに書かせていただいております通り、こんな組織でございます。特徴としては、1955年、生産性向上対策というところで閣議決定で決まったんですが、経済界、労働界、学識者、三者構成、ここが特徴でございます。産官学労、

そういったところが1つの特徴になっております。もともとはアメリカの新しい経営手法だったり、労働組合、こちらを経営と協力して日本の経済を発展させていきたいと思いますところからスタートしたというところでございます。

現在は、そこからいろいろ派生して行って、いろんな様々な事業をさせていただいております。政治行政含む社会経済システム、こういった分野にも今はお仕事の幅を広げさせていただいております、最近ですと、令和臨調の事務局とか、そんなこともさせていただいておりますし、我々のような現場の現業、現場と言いかも変ですけども、セクションでは執行部のほうの行革の御支援、それから総合計画、そういったことを作成支援といったこと、そして我々のほうの議会改革、こんなことを答申をさせていただいているというような会社組織でございます。

それで、我々地方議会改革プロジェクトというものでございますけれども、地方議会改革のバージョンアップをやっている。それを支援しているというような活動をさせていただいております。

そのための1つのツールということで、地方議会成熟度評価モデルというものを御紹介させていただいて、それを使っていただいて議会改革を進めていただく。こんなことをお手伝いをさせていただいているというところでございます。

この地方議会改革プロジェクトの中で、地方議会成熟度評価モデルというものを開発していったんですが、その開発に当たっては、資料の5ページにありますとおり、地方議会における政策サイドと評価モデル研究会というようなものをつくって進めてまいりました。当初は、とある議会様から議会の評価をしたいというようなことで、内輪の勉強会をスタートさせたというのが一番

まりでございました。初めはそんな難しくなくてできるんじゃないかというようなことも、やりながら勉強会を開いておりましたが、実際にいろいろ検討してみまして、議会を評価するというのは、なかなかとんでもないことだな、なかなか難しいことだということに至りまして、何を評価したらいいのか。何を基盤にしたらいいのかというところで、非常に悩んだというところがございまして、こんな研究会を立ち上げて、まず、そこから研究していったというような流れでございます。

2016年から研究会をスタートさせましたので、かれこれ6年近くこんなことをやって、やっと今の形にまとまってきて、皆様のほうにいろいろ御説明にあがったり、御活用いただいたりということができるようになってきたということでございます。

この研究会は、いろんな方に御参画をいただいております。早稲田大学のマニフェスト研究所さん、こちらもお付き合いあるかと思えますけれども、こちらのほうにも御協力いただいて一緒にいろんなことを勉強してまいりました。

まずは、先進事例研究して、そしてどんな構成要素があるんだ。特に議会からの政策サイクルというところで、そこを勉強して、その中間報告をまとめ、そこから評価モデルというものを構築していったという流れでございます。

こんなことを我々してきて、今につながっているというようなことでございます。

次のところが、これはもう皆様復習ということで皆様の前でお話するのは恥ずかしいぐらいなんですけど、地方議会改革、地方分権、これと絡んでおりますということの御説明をさせていただいてあるものでございます。ここは特に、私のほうから御説明することはございませんので、そのままずっと行きますけれども、地方議会改革の中

で、皆さん御存じの栗山町議会さん、ここの議会基本条例、これがのろしとなって、今の新しい議会改革の動きということにつながってきていますと。

新しい議会というのは、住民参加の促進、議員間討議の充実、情報公開、機関としての議会、これで動いていきたいと思いますというのが、今の議会改革の流れでございます。

当然、皆さんも那須塩原市議会様もこの流れにのっとっているんな議会改革を今進められて、これまでも進んできたということで伺っております。さて、その次ですね。

地方議会改革の歩みということで、少し私どもの議会評価というところにつながってくるところで、簡単に振り返りをしたいと思います。

従来の議会評価、議会改革するに当たって、自分たちがどんなふうにできてきたか。どんな立ち位置があるかということで、議会改革というのと評価というところで、幾つかの議会が評価をするということが進んでまいりました。議会基本条例の条文、これを評価項目として評価しましょうというケースが多分今までは一番多いのかなというふうに思っております。それ以外にも議会が設定したそれぞれ個別の目標ですね。

例えば、議会報告会の回数とか、あと議員提案条例、これを何本やりましょうとか、そういったものですね。こういったものを目標を立てて、その達成率ですとか、そういったものを評価していこうとか、いろんな取組が従来ございました。ただ、なかなか議会評価というところでは、決定打がなくて評価に当たっても評価基準というのがこれが明確でないというのが1つ課題としてございました。特に、議会基本条例の条文評価あるんですけども、これ、じゃ、評価するには、その前にここまでこういうことをやっておこうとか、

こういう目標を立てようとかということで、初めて評価になるんですけども、いきなり、これできているか、できていないかというところで、5年たったり10年たったりして見直しというふうなことを評価をされる議会様が多くて、結構できているできていないに丸とかバツとか、そんな感じで大体議会基本条例に書いてあることですので、基本的にはそれやらないといけないというのが前提になりますので、評価になると、大体丸、できているとか、やっている取り組んでいるということになりまして、なかなかじゃ、その中身どうだったのということの実質的などというふうにできているのか。どこまでできたのということにはちょっとならなかったということが実はあったりいたします。

あと、数値化できるという項目に焦点が分かれて、数値化できないところというのは、なかなか対象にならない。ですので、取組の一部を評価するけれども、議会全体でどうなったとか。本当に住民の福祉の向上に役立つようなふうに議会は成長しているのかとか、そういったところはなかなか対象の外にされるようなことがございました。議会改革全体が評価されないといったところが課題として上がっております。

あと、アウトプットの結果が住民福祉の向上につながっているのかというと、非常に本質的な難しい話、こここのところの議論がなされないまま、議会評価というラインでは、今までできてしまったということでございます。

こんなことを我々も踏まえまして、できるだけこういった課題を克服できるような議会評価に当たる何かモデルが構築できないかなということで取り組んでまいりました。そのときに、特に構築するとき大きな目的として上げたことは、議会の評価が目的ではないということでございます。評

価の評価と 情報を重ねる形でありあまり意味がないことでございますので、評価をすることによって、何につながっていく。やっぱり、それが大事であるということを考えておりました。なので、我々のモデルをつくったときの目的としては、議会改革、これを議会活動の最終的なゴールである住民福祉の向上、ここにつなげていくことが目的であると。そのために、どんな活動ができたのか。どんな成果を生んだのか。それをチェックしていきましょう。そういうものが我々がつくる評価のモデル評価だと。我々が考える評価であるということになりました。

また、先ほどお話ししました従来この議会評価にありました課題を少しでも克服していこうということがテーマとして上がりました。こんなことを踏まえて、我々の地方議会成熟度評価モデルというのをつくってまいりました。

その主なポイント、こちら資料の8ページのところなんですけれども、議会を二次機関として捉えて議会運営、別の言葉で言うと、民間の経営の言葉なんかを使うとマネジメントという言い方になりますけれども、議会運営を包括的に評価をしていこうというものになりました。そして、先ほど申し上げた議会改革ですとか、議会評価そのものが目的ではなくて、最終的なゴールである住民福祉の向上につなげていく、その過程を見ていくということになります。そういったこともございますので、制度面の形式的なことではなくて、実質的な改革、ここを見ていくというところにポイントを置いています。

あと、アウトプットの量が多いか少ないかということではなくて、そこに至るまでのプロセス、どんな過程でどんな宿命を持って、どういうふうに皆さんで討議いただいて、その結果に結びついていったのか。そこを評価したいというふう

考えております。そういった意味で、議会の特定の領域というものではなくて、議会活動全体を包括的に見ていく。それが地方議会評価モデル、これをつくった目的なりポイントということになります。ですので、地方議会成熟度評価モデルというのを、多角的な視点から議会運営の状態を見ていく。分かりやすい言葉を使うと、ここに資料に書いてあるとおり、診断というような言葉を使わせていただいております。言うなれば、健康診断するとか、人間ドックに入るみたいなそんな感じで議会全体を機関としての議会ということで、確認をしていきましょう。今、どんな状態にあるかというのを見ていきましょうというのが地方議会成熟度評価モデルというものでございます。

まずは、こここのところが1つポイントでございますので、ちょっとそんな御理解を頭の隅に置いておいていただければと思います。

2020年、開発させていただいて、こちらの那須塩原市議会様のほうにもちょっと御紹介をさせていただきました。そのときは、標準版40項目というものと要約版15項目、2つのものをつくりましたよということで40項目やってください。お願いします。そんなようなお話をした記憶がございます。その後、いろいろなちょっと幾つか御協力いただいている議会様とかには、トライアルをしていただきまして、その結果、どうでしたということで、いろいろお話を聞いてまいりました。その結果、標準版の40項目と言っていたものだと、とてもレベルが高過ぎてついていけないと、難しすぎますと。せいぜい15項目、これぐらいだったらまだ何とか対応できるかなというところが多い反応でございました。我々もちょっとそのあたりを危惧していたところがございます、勢いでいろいろ机上でつくったところがありますので、かなり細かいところまで項目をつくって、これでどう

でしょうという形だったんですが、皆様も実際にトライアルをしていただいた結果を基に、ちょっと我々でも研究会の中で、もう1回検討し直して、より皆様に使いやすいものということで、改訂を行うということで、昨年1年間、見直しを行いました。

それで、今日またこの後、御紹介させていただきましても、今回2024年の4月から改訂版ということで御紹介をさせていただいたのが地方議会成熟度評価モデル16項目、これを普通のものという形でお取組をいただければと思っております。つくった詳細版のほう40項目のほうもあるんですけども、こちらは特に成熟度が高い議会向けということで16項目でやっていただいて全部二重丸がつくような議会さんのほうは、さらにそのレベルを上げていただくというために40項目で、またその中を細かく見ていただくというようなことをしていただく。そういうステップに進めていただければいいなというふうに構成を変えさせていただきました。

ですので、地方議会成熟度評価モデルは、16項目見ていただくのかなということで前回からは少し中身が変わっておりますという形でございます。

これまでが一応あらましということで、地方議会成熟度評価モデルの御案内をさせていただきました。この後、私のほうからは評価モデルについての中身ということで、議会プロフィールのところだけ少し私のほうから御説明をさせていただきますと思います。

この皆様のほうに、これからの御説明をお配りをさせていただいております。こちらガイドブックのほうですね。こちらの10ページから先になりますが、そこをタブレットの資料など開いていただいて、そこを御参照いただきながら少しお話を聞いていただければと思います。

皆様のお手元よろしいでしょうか。10ページのところですね。議会の航海図を描く議会プロフィールを使って議会改革を俯瞰する。こういった選んだところがちょっとこんな格好をつけたタイトルをつけさせていただいております。

議会プロフィールで、プロフィールという、なかなか皆さん頭に浮かぶイメージがいろいろあるかと思ひまして、結構広い概念になってしまっているというふうに思うんですが、ここで我々が使う議会プロフィールというのは、こんな3つのことを、これからお話しする3つのことを整理したものというふうに御理解をいただきたいと思ひます。

まず、1点目として議会に期待される役割、ミッションと我々呼んだりしていますが、議会に期待されている役割ということと、それから実現していくべき理想的な姿、議会が実現していくべき理想的な姿、これ横文字で言うとビジョンということで、我々述べている部分がこの役割と理想的な姿、これを明確にしていくこと。これが1つです。

2つ目としては、この未来理想的な姿、これに向かうための理想的な姿に向かっていくに当たって、現状、これを的確に評価して今後の社会環境、こういった変化も併せて捉えていくということが2つ目。

3つ目はですね、その理想的な姿からバックキャストという理想的な姿から逆算していただいて、課題、これを現状を見ていただいた上で課題を抽出して、その課題解決のためにどんな行動を取っていくかを考える。これを1枚のシートで整理をするというのが議会プロフィールというものでございます。

なので、もうちょっと別の言い方をすると、これ、とある議会さんから教わったんですけれども、

今どこにいるのか。我々は今どこにいるのか。じゃ、これからどこに行きたいのか。どうやってそこへ行くのか。我々は地図を持っているのか。議会改革で大事なのはこういうことだよということで、とある議会の議長さんがおっしゃっていたんですが、まさに議会プロフィールというものが、今どこにいるのか、これからどこに行きたいのか、どうやってそこに行くのか。地図を持っているのか。これを1枚のシートに表していくというものでございます。

議会プロフィール、それぞれ構成は11ページ、12ページのところを御覧になっていただくと、どんなことが書いてあって、どんなそこには何を記載すればいいのか。こんなことを説明をさせていただいております。基本的には、基本データということで今議会の状況というんですかね、客観的な数値、そういったことを、まず一覧にさせていただくと。これも数値探すとすぐ出てくると思ひますけれども、なかなか一覧で見るといことがないかと思ひますので、まず、定義づける部分ですね。基本データというものを一覧にさせていただいております。あと、大切なミッション、期待される役割、それから議会はどこへ行くのかということで理想的な姿ビジョンを書いていただく。

4番目のところ、枠のところですね。現在の議会、これは今どんな状態にあるのか。これを分析をしていただくということになります。ここで現在の姿ということ振り返っていただくことで、那須塩原市議会さんの強みだったり伝統だったり、あとは議会の特徴、そんなことに気がついていただくことにもなると思ひますし、その中から見えてくる改善すべき課題だったり、そんなことも、ここのところで確認していただくということになります。それから、外部要因、これも大事なことでございますので、議会を取り巻く社会環境の変



化ということで、制約条件になってきますので、こういったことも検討していただくと。それを得た上で、逆算、未来、将来の姿から逆算していただいて、これから取り組むべき課題、未来、将来の理想の姿に近づくために何をしていたらいいか。そのための課題というのを抽出をしていただいて、最後7番目のますのところ、それをじゃ、実現していくために、具体的にどんな行動を取るのか。こんなふうにまとめていただくというものでございます。

次のページですね。13ページのところで、一応議会プロフィール作成の意義ということで簡単にまとめさせていただいております。

ここで一応大事なこと5つほど入れさせていただいておりますが、1枚のシートでこのような自己の認識を表したり、議員間討議をして、そして皆さんで意識して気づきが生まれたら、これまで考えてこなかったということもちょっと考えていただいたり、そんなことをしていただく形に、この1枚のシートをつくるだけでなってくるのかなというふうに思っております。

これからは、お取り組みいただく場合にはというようなことで、14ページは議会プロフィール作成をしてと一例というような形で入れさせていただきました。これが全てというわけではありませんので、また、もしお取組をいただくということになりましたら、改めてこのあたり説明差し上げたいというふうに思っております。

あと、将来の理想的な姿から取り組むべき課題、これを考えてくださいというような話をさせていただきましたが、それを表わせていただいた図が16ページの三角形の図でございます。このギャップというところがタッチアップしていくためのこの課題が並んでくるころかなと思っておりますので、その課題に優先順位をつけていただいて、

自分たちに、では、どこまでやっつけよう。その後、もしうんと長い大きな課題があれば、それは次の期の議会の皆さんに引き継いでいこう。そんなことで議会改革を継続していただく。そんなことになってくるかと思えます。

私のほうから、まず簡単に議会プロフィールのところまでを御説明をさせていただきました。

続いて、田中のほうから本丸であります成熟度評価モデルの中身につきまして、少し概要を説明させていただきたいと思えます。

○田中氏 それでは、皆様改めまして本日は時間を頂戴しましてありがとうございます。日本生産性本部の田中でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、地方議会成熟度評価モデルについてということで、御説明に入る前に、少し成熟度の概念を御理解いただくために、ちょっと準備体操をさせていただければと思うんですが、ひとつ、ちょっと皆様に御質問をさせていただきたいと思うんですが、おいしい牛乳とはどんな牛乳かという御質問をさせていただければと思えます。ちょっと直接お伺いすると残ってしまってよくないかなと思えますので、心の中でお考えいただければと思うんですけれども、やっぱり、御自身の好みとかいろいろあったり、あるいは、ちまたでコクがあるとか甘いとか、いろいろなことが言われているんだと思うんですね。確かに、数値的なもので何か濃さとか糖度とか、そういうものを改善するために、牛の餌を変えたりですとか、そういうことをするというのもあるんだと思うんですけれども、同時にちょっとお考えいただきたいのが、例えば、牛乳が牛乳瓶ではなくて何か緑色のトイレ用の洗剤が入っているようなボトルに入っているって売られていたら、それがおいしいと感じるかどうかというのをイメージしていただきたいんです

ね。恐らくおいしいと感じないのではないかなと思うんですね。

これ今何を申し上げたいかと言いますと、そのおいしさというのは、数値的な牛乳そのものの質の改善ということだけではないに、例えば、その入れ物であったり、あるいは売り方、ブランディングであったり、いろいろそういう総合的なものの結果としておいしいと認めてもらえる。外から認めてもらえる、そういうものではないのかなと思うんですね。

こうやって申し上げると、私、長野県の出身なんですけど、例えば、これ八ヶ岳とか、ほかにも牛乳がおいしいと言っている地域もありまして、そうすると、その那須塩原の牛乳が一番おいしいと皆さんは思っている、私にとっては実は長野の牛乳がおいしいとか、おいしさもいろいろな感じ方があると思うんですね。今、何をお伝えしたかったかと申し上げますと、やはり、数字で検証できることというのが当然あるわけですが、ともすると、その数字に捉われてしまって、じゃ、それだけ上げればいいのかとか、そういうどんちよっと視野が狭くなってしまいうこともあると思うんですね。そこで大切になってくるのが、じゃ、その数字で設定した目標であったり、結果以外にも我々は何を目指していたのかと。そういうことに立ち返ってお考えいただくということだと思います。

我々は、その立ち返ってお考えいただく手法として対話という方法をお伝えしております、対話というのは意味づけ、ちょっとややこしい話なんですけど、事実に対する意味づけなんです。なので、牛乳のおいしさというのも数字でこう出ているからおいしいのだということではなくて、我々はこういう取組をしてきて、それがおいしさにつながっているんだという、そういう意味づけ

をしていく対話というのを大切にしていきたいと。そういうことで、この成熟度という考え方を我々は取り入れていったということでございます。すみません、前振りが長くなりました。

本日、こちらのお送りしております資料に沿って御説明をさせていただきます。

地方議会成熟度評価モデルの御説明の私のほうからは、この12ページ以降のところから御説明させていただきます。

地方議会成熟度評価モデルの概要というところ、3の評価の実施と結果の活用というところで、どんなものかということと、どう使うのかと、この2点を御説明させていただきます。

それでは、お手元でおめくりいただいた13ページ目を御覧いただければと思います。

まず、この地方議会成熟度評価モデルは、組織のマネジメントに必要な5つの視点で構成をされております。この組織のマネジメントというのがどういうことかなということなんですけど、冒頭、鎌田からも御説明いたしましたとおり、日本生産性本部では、昔からその組織の改革であったり業界の改善であったり、そういうことを通じて生産性の向上にも寄与するという発想を持っておりまして、組織の運営をうまく回すためには、どんなことが必要なのかということ調査研究したりですとか、あるいは、それを優れた事例を普及したりですとか、そういったことに取り組んでまいりました。その積み重ねの中で、ある程度、組織としての経営の状態がいいようなところに共通するような要素というのがあるのではないかとということへたどり着いておりまして、今回、この地方議会の成熟度評価モデルは、その組織運営に必要な視点というのを議会に当てはめるとどうなるかということで、少し手直しをしてつくっていくものでございます。

具体的には、その5つというのは、まず視点の1の戦略プランということで、これは企業にお勤めの御経験がある方などはじっくりくるのではないかと思うんですけども、いわゆる経営戦略のような、これどういうところに行きたいのかというそういうものを議会さんとして持っていますかということをお据えております。

視点の2番目というのは、政策サイクルと表現しておりますが、議会活動の基本的な基幹となるようなプロセスのことをこれは意味しております。

3番目は、条件整備という視点でして、これは特に議会の場合は、リーダーシップをお持ちの議長様であったりとか、そういったキーパーソンのような方が、あれをやろうと行ってすぐに実施すること自体はできると思うんですけども、それが改選後に続くかとか、10年後も残っているか。そういう目で見ただけだと、なかなか実は難しいんではないかなと思うんですね。何を申し上げたいかという、やはり、それに必要な体力をつけたりですとか、仕組みに落としたりですとか、そういうことがないと続いていかないということで、その議会活動を支えるための能力を身につけていけるような、そういう基盤づくりをしていますかということが、この視点の3の条件整備ということでございます。併せて今例えばですが、SDGsとか、そういう新しい世の中の要請というのも出てきておりますが、新たな社会的な要請であったり、あるいは伝統的なそれこそ政治倫理ですとか、そういったものも含めて議会として活動を信頼してもらえるような、あるいは責任を果たすようなそういった取組ができているかどうかということが、この視点の4、信頼と責任ということでございます。

最後、視点の5が、これは那須塩原市議会様の場合は、もう既に問題意識をお持ちだと思うんで

すけれども、活動をやりっぱなしになっていませんか、振り返っていますか。そういうことも当然組織の運営を考える上では必要な視点ということで、ここに入っております。

このような5つの視点の評価をしまっているのが地方議会の成熟度評価モデルということでございます。

次の14ページ目でございますが、ここでは我々が評価と呼んでいる活動の意味を御説明しています。

これは、例えば議会改革のランキングとか、もう既にそういった指標があるわけですが、あまり横のほかの議会さんとの比較だけに使うというよりは、この成熟度評価モデルは経年で縦の変化、皆さん自身の変化があったかどうかとかというのを見ていただくようなものと捉えておりますね。ですから、一種の健康診断のようなもので、定点観測していくようなものとして御提案をしております。

この14ページの下欄ですけれども、誰がやるのかということですが、これは議会の中の議員の皆様、あるいは議会事務局の皆様、これ混ざっていただいて実証いただきたいというふうに考えております。

じゃ、いつやるのかということなんですが、これも議会の御状況によって様々な使い方をしていただいております。ここに書いてあるのは、当初我々が想像したような使い方ですけれども、例えば、改選の後に、まず最初のスタート時点の状態を確かめるために評価をしていただいて、2年目が終わったところで、じゃ、中間の状態を見ていただいて、残りの2年間にやるべきことをはっきりさせると。そういう使い方をしていただいて、最後、改選の前に、じゃ、この4年間どうだったかということをお振り返る意味でやっていただくと。

こんな始まりと中間と終わりの任期の中で、この議会活動を捉えていただく道具としてお使いいただくによろしいのではないかと考えております。

じゃ、どう評価するのかというのが成熟度の評価ということでございまして、これが次のページで御説明をさせていただきます。

15ページですね、おめくりいただけるかと思えます。この成熟度の考え方なんですけれども、これが先ほど申し上げたように、議会のマネジメント、すなわち地方議会の組織性に着目した評価の尺度でございまして。既に、やはり条例の検証というような形の評価の手法は様々なものがあるわけなんですけれども、この議会が組織としてうまく回っているか。こういうところを捉えていこうというモデルは、ある意味、成熟度評価モデルが初めてではないのかなと考えております。

具体的にこの成熟度というのは、どういう要素で見るんだということなんですけれども、3つの要素を組み合わせて成熟度というものはかかってまいります。

1つが、この認識というところですが、要は、これ何のためにやっているかというのが皆さん腹落ちしているか、理解されているか、共有されているか。そういうことでございます。やはり、この目的意識であったり、なぜやっているのかというのが共有されていないと、どんどん形骸化していってしまうんですね。ですから、皆さんでその前提とするような考え方というのが共有できているか。浸透しているかということはこの成熟度の1つの要素としております。

2つ目が方法と書いてありますが、これも平たく言うと、仕組みになっているかということでございます。なぜかといいますと、仕組みに残らないと、特に行政と違って議会は政治の世界ですので、例えば、前任の方の否定とかも、それはそれ

で1つの政策になるわけですね。なので仕組みに落ちていないと、一度始めてもすぐに終わってしまったりですとか、ちょっとあっちに行ったりこっちに行ったりで疲れてしまうという改革疲れに陥りかねないという部分もございまして。やはり、それを仕組みに、あるいは制度に落としていることで、継続性を持って続けていくことができるのではないかという、こういった問題意識で、この2つ目の要素、方法というのを入っております。

最後は、結果ということで、先ほど鎌田から御説明をいたしましたとおり、目標を設定していると効果の検証ができるということですね。ですから、目標が設定されていれば、それに対してどうかという成果も明確化できるんですけれども、他方で、私のほうから牛乳のおいしさというお話を申し上げたんですが、目標以外にもその成果を捉えるための方法というのは、いろいろあると思うんですね。

ですから、ここで申し上げたいのは、その取組の成果というのを明確化できているかどうかということ。結果として示せているかどうかということ。この認識と方法と結果と3つの要素がこの成熟度の要素でございまして、16個の項目に沿って、それぞれ成熟度の判断をしていくというのが評価の仕方になっています。

続いて、16ページ以降ですね、どう評価をするのかということですが、17ページに記載しておりますのは、要するに今2種類の評価モデルがあるということで、先ほど御説明したので割愛をさせていただきます。

18ページ以降が実際にどう評価をするかという手順のお話でございまして、18ページでは、どんな方法で成熟度をはかっていくかという手順を示しております。ここでは合議によって成熟度を決めていただく。合議というのは、冒頭申し上げた

会話という方法になりますので、まず、ステップの1ということで評価の目線を共有していただくと、評価に参加する人同士で評価の目線を共有いただくと。

2番目は、現状を評価モデルに沿って見ていただく。ステップの3では、その現状の中で足りていないところ、十分なところ、いろいろ課題が出てくると思いますので、そこから成熟度をもう一つ上げるために何ができるかということを検討いただくために、御活用いただくという基本的な大まかなステップとしては、こういった流れになっております。

19ページには、例えばということで、議員間討議の実施状況という点で、成熟の評価をするとうなるかなというような例を記載しておりますので、また、もし御関心ありましたら、後ほど御覧いただければと思います。

最後ですね。少しページ飛びまして21ページを御覧いただきたいと思うんですが、これ要はこの21ページで御説明をしておりますのは、この評価を地方議会の成熟度評価モデルで実施していただいた後に、それをどう生かすかということに記載しております。

先日、政策はなぜ検証できないかという明治大学の西出先生という方のお話を聞いたんですけども、やっぱり、どんどん政策評価のシステムというのが形骸化していってしまうという問題意識をその先生はお持ちだったんです。要するに、その評価をすることが目的化していってしまったら、それはただの負担になってしまって、形骸化をしていってしまうということもあろうかと思えます。

ですから、評価システムそのものは、ある程度、例えばありものをお使いいただくとか、あるいは世の中の政治に合わせて直していくとか、そういうことが必要になってくるかと思うんですけれど

も、そういった意味で、評価の方法というのは、いろいろと方法を研究いただければよろしいのかなと思っております。

その中で、我々のこの成熟度評価モデルの場合は、どう活用できるかという1つの例をこの21ページに記載しております。

具体的には、この黄色の枠で書いてある部分ですね、この現状分析というところに、この成熟度評価モデルによる評価の結果を書いていくような、そんなイメージになっています。

この議会プロフィールの使い方先ほど鎌田から御説明をしたんですけども、これも平たく申し上げると、理想的な姿というのを皆さんで改めて考えていただいて、それと現在の姿と見比べていただいて、じゃ、そこに至るために何をするかと。そういう対話の道具がこの1枚のシートという感じですね。本当に御覧いただくと、ただの1枚のシートなんですけれども、今、実はほかのそれこそ私の長野県のある議会さんでも、これちょっと取組をお始めいただいたんですけども、やはり議会の中には、そのベテランの御経験豊富な議員の皆様もいらっしゃれば、1年生の改選直後の初めて議員になったというような方もいらっしゃるとお伺いしました。そういう中で、やはり同じ制度の運用であったり、同じ取組の理解もかなり違うという問題意識をお聞きしたんですね。なので、当然こう資料とかそういうものはあるんですけども、それで済ませるのではなくて、こういったものをつくっていく過程で、その対話ですね。その取組がどういう意味でやっているのかと、どういう目的でやっているのかと、それを自由討議いただいて、お互いに腹落ちしていくと、そういうプロセスをつくるための仕掛けがこの議会プロフィールだと思うんですね。

最終的には、これはじゃ、何が本当の意味での

問題なのかというのを抽出していただいて、最後は、じゃ、その課題を解決するためにどんなことに取り組んでいくのかと。そういったものを目標設定していくと。そんなプロセスを御提示しております。

ですから、既に那須塩原市議会様の場合は、こういったPDC Aに近いような仕組みというのをお持ちなんですけれども、この議会プロフィールはもう少し優しい取組なのかなと思っておりまして、ぜひ我々も今日いろいろ御助言をいただいて、またこういった取組にも生かして、いろいろなそれこそ議会事務局の方2人とか議員さん10人とか、そういう議会様でもこれはちょっと御関心をお持ちいただいておりますので、いろいろ御助言をいただけたら我々も勉強させていただいて、いろいろな方にお使いいただける仕組みにできればなと思っております。一部ですね、ちょっと脱線した御説明で失礼いたしました。

以上が私からの御説明でございます。

○鎌田氏 私どものほうからちょっと長くなって申し訳ございませんでしたが、地方議会成熟度評価モデルというものにつきまして、概要になりますが、御説明をさせていただきました。

この後のお時間でございますけれども、質疑応答、また意見交換というような形で我々がした説明が、聞いたけれども、よく分からないとか、ここはどうなんだということがございましたら、自由に御意見、御質問いただければなというふうに思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

○齊藤委員長 説明ありがとうございました。

それでは、委員の皆様から質疑とか御意見とかあれば、よろしくお願いをいたします。何でも大丈夫です。

森本委員。

○森本委員 もうこれ全国でも取組始めているとこ

ろもあるということなんですけれども、どのぐらいの議会で、これは件数的に取り組まれている、例えばいい結果が出てきているというか、変化が出てきているところがあるとしたら御紹介いただければと思いますので、いかがでしょうか。

○鎌田氏 具体的には、昨年度ぐらいから実装化ということでお取組をさせていただくような形に動いてきています。

まずは、会津若松市議会さんのほうは、これは独自でこの仕組みを取り入れて、評価の仕組みとそういったものを構築しているということで、昨年からお取組をいただいております。ただ、会津市議会様の場合には、皆さん御存じの方もあるかと思っておりますけれども、かなり実力のある市議会さんでございますので、これをそのまま取り込むだけではなくて、会津バージョンというような形で中身を少しアレンジしていただいて、それプラス自分たちの議会で、これまで評価というものをしようと考えていたそれを組み合わせて会津若松モデルというものを今つくり上げている最中になっています。我々もそこはもうお任せしてあるので、我々もまた情報収集をしながらということで今進めているところです。

あと、もう一つは、我々もこれは御支援させていただいているのが、長野県の飯田市議会さん、飯田市議会さんのほうが昨年、その前ぐらいから研究会のメンバーさんでありまして、初めからいろんな意見をいただいて、取組をどうしようかと検討していただいていたんですが、改選を待つてから、実際にお取組をするということになりました。昨年からお取組をするということになりました。昨年からの話をして、今年の春4月から本格的に始動ということで動き出しました。そういった意味では、飯田市議会さんは、一部のそういう突出したということではなくて、議員さん全員でお取組をするということになりました。議員

さん全員でプロフィールシートを書いて、それを集約して議会ということでまとめた後、実際に評価にもお取り組みいただいて自分たちの議会がどんなポジションになって、今どんな状況にあるかということを見ていただくと。それをベースにさせていただいて、飯田市議会さんも議会改革ビジョンというのをおつくりになられているんですが、10年間、それを見直しをしていなかったということで、その評価結果に基づいて、そのビジョンの見直しをして、それも今後の取組の課題ということで追いかけていくということで1年間かけて、その整理をするということで進めております。なので、議員さん全員で皆さんで考えてやっていこうというのが飯田市議会さんが全国初ということになります。

それ以外は、議会研修会の冒頭で、まず自分たちの立ち位置を確かめようということで、評価、まずやってみましょうということでお取組をいただいている町議会さんとか、あと、これから議会改革を始めるに当たって、まずはちょっと自分たちの議会はどんなところなのかということで、評価モデルやっていたいただいた後、そこから課題とかが見えてくるので、それをつぶしていくというような形で議会基本条例の見直しも含めて、最終的なゴールをそこへ持っていくというようなことで、小さいところは鹿児島島の沖永良部島の南半分にある知名町議会さんというところなんですけど、そこが議会改革やると宣言したんですが、何をやりたいか分からないということで、半年ぐらい宙ぶらりんだっただけなんですけれども、このモデルを見つけていただいて、そこからスタートしていると。そのようなことで少しずつお取り組みいただけるところが増えてきている感じかなと思っています。去年あたりから、そういった形で動きが見られています。

あと、問合せのほうはいただいたりしているんですが、結構、御覧になっていただくと、これすぐやると大変だというのが皆さん分かりますので、よく検討してからやりたいと思いますというようにところもまだあって、勉強していただいている。そんなところもございます。

○森本委員 お話聞くとそんなに多くはないのかなというふうに思うんですけども、先ほど出てきた飯田市議会さんが全員で取り組んでいるという話がちょっとあったかと思うんですけども、私も議運であったりとか活性化の委員会であったりとか、そういうところで議会改革に取り組んでいるんですが、そこでちょっと悩むのは、現状維持で大丈夫なら変えなくていいんじゃないかということをよくほかの議員さんから言われたりすることがあるんで、そういうでも確かに回るんですよ。現状維持であっても。だけれども、やはり活性化であったりとか、いろいろな話し合いをしていけば、よりよくなってきて市民福祉の向上につながるべきであるとは思うんですけども、現状維持で回るんだとしたら、そのほうがいいんだよということに対してどんなふうな言い方というのがあるのかなというのをちょっと思ったんですけども。

○鎌田氏 確かに現状維持であれば回っていますし、特にそこから悪くなるわけでもないということなんですけど、現状維持だけだとよくなることもないということだと思います。結局、現状維持だけだと、今の状態が楽ということになってしまいますので、あまり物事を考えなくなってしまって、世の中見えなくなってしまいませんかというところがあると思いますし、住民の皆さんも、じゃ、現状維持なんですかということ、住民の皆さんはそうではない。やっぱりいろいろ皆さんお考え新しい方もあり、こんな要望を持ってこういふふうにな

ってくれたらというところがあると思いますので、やっぱり住民の声を聴いて、それを取り込んでいくと。現状維持でいるということは多分ないのかなど。常に動いていると思いますので、それに合わせて議会というのも動いていかなきゃいけない。そうなった場合に、やっぱりそれに合わせた仕組みとかやり方とか、あとは議会がどういうふうなレベルになったら、じゃ、住民の皆さんの言っていることを実現することができていくのかとか。やっぱり皆さんでそういったことを議論していただくということが必要だと思いますので、現状維持であれば、だんだん議会が必要じゃないよと。住民の皆さんのほうから、やっぱり議会は応えてくれないというふうにギャップが広がっていくのではないかなというふうに私なんかは考えております。

○田中氏 すみません。今の現状維持で大丈夫ならそれでもいいのではないかというお話なんですけれども、今、ニュースなんかを見ていると、やはり先進的な議会の報道というのを目にする機会が増えてきたと思うんですね。それこそコロナ禍で、例えば、デモテックの取手市議会さんもそうですし、あるいは私、今東京都の墨田区に住んでおるんですが、ワクチン接種なんかは墨田区すごく速いと。議会の対応がすごく速かったみたいなんですけれども、そんな報道も出てきております。

今、ワーケーションとかその働き方なんかも変わって、東京都内に住まなくても、もう通勤をちょっと近郊のところからするみたいな方も増えていると思うんですが、そういう中で、やっぱりどこに住もうということを考えたときに、どういう自治体がいいのかななどということも当然考えた上で選択されると思うんですね。そういう中で、やはり今まで十分にされているとしても、さらに一歩先に行く取組をされている議会さん、自治体

さんはすごく魅力に映ると思うんですね。やっぱりそういう意味でも、その現状維持だけではむしろそのほかが進化をしていきますから。置いていかれるという状況にありますので、それはやはりぜひもう一段お力をお出しいただいてもよろしいんじゃないかと思っております。

○齊藤委員長 そのほかございますか。

鈴木委員。

○鈴木委員 住民の福祉の向上なんですけれども、行政側の市長、執行部の方で議会改革をして議会が理想があると思うんですけれども、議会だけでは回らないと。そこのバランスが非常に、時計だと一つの歯車、昔のアナログ式の時計だということと議会という歯車だけじゃなく、時計は結果的にはよくなるかということ、よくなるんですよ。そこはどう変わるんですかというのと、議会、これは森本議員が言っていましたけれども、自主的、成果がもうあって、これだけやってるとで過去10年でこれだけやったら、こんなに市長も変わって執行部も変わって町自体も市民の声が変わっていますよと。実績があつてここへ来ているんであつて、取り組むだけですよ。制度がない中で、結果が出ていないのでこれやりましょう、やりましょうと言うんだけど、あなたたちの言うように前についていって、本当に住民福祉に議員はこれやるとすごくエネルギー使うんですよ。本来のチェック機関の仕事もあるのに、これのために時間を割くことがいいのか。そうじゃなくても、今現状の中で結構ちゃんとみんなニュースについてもチェックして、理解して結構うちの議会は質問しているというふうに私は感じています。だからやっている議会ではないので、だから、これをやったから、うちは何ができるかと、そこは自信を持って答えてもらっていいですか。

○鎌田氏 そうですね。まず1つ目のところですね。



そこは当然執行機関の市長のほうがいろいろ政策を決めて、それを提案して議会はそれに対して審議をしていると。我々が考えているのは、善政競争という言葉なんですけれども、議会と執行機関とでぜひ政策を議論していただきたいというふうに思っています。それができる議会になっていただきたいというのが我々がこういったことを始めた希望であります。

議会の大事なこととして、審議、監視ですね。執行機関のそれもありますけれども、もう一つとして、議会から提案をしていったり条例つくったり、そういったことも議会が持っている大事な機能でございますので、その両方を生かせる。そういった議会になっていただけたらと思っています。なので、市長の言いなりということではなくて、逆に行政側から見たら、何か取るに足らないとか、そこまで細かいことはできないよということは時としてはあります。ただ、議会から見たら、それはやっぱり住民の声を聴いた切実であったり、そこは取り上げていかなければいけないというところもあるかと思っておりますので、そういったことは議会からしっかりと拾い上げて、それを政策として通していく。そういった住民に基づいた活動をしていただく。そういうことが議会としてできるのであれば、監視ということだけではなくて、活動する議会とか、そういったことになってくるのではないかなというふうに思っています。

いわゆる先進的だとか、改革が進んでいる議会というのを会津若松市議会さんもそうですし、飯田市議会さんもそうなんですけれども、やっぱり、ただ単に出された予算案についていいか悪いか。まあ妥当だねということではなくて、やっぱり自分たちで考えて、それに対してちゃんとした評価下だけではなくて、市長さんと善政競争ということで議会からもいろんな御提案をして、予算に

ついても修正を加えたりとか、いろんな活動をされています。やっぱりそこで、お互いが闘い合うというところで、競争し合うということでもいい政策に結びついていっているということにつながるので、ぜひそういったそれが成熟度が高い議会というのかなというふうに我々なんか考えるんですけども、やっぱりそういうレベルに那須塩原市議会さんもなっただけの資質を今持っているかと思っておりますので、ぜひ、そういったところに向かって行っていただけたら、この町が発展していく。そこに議会が貢献しているということになるのかなと思います。

質問いただいた2つ目、まだ実績ないじゃないかというところなんです、これはもうおっしゃるとおりです。なので、どうなっていくかということについては、我々も確実にこういうふうによくなったよとか、こうなりましたと。現時点では説明ができないところでもあります。ただ、もう少し、その辺お時間ちょっと経過していくと、会津若松さんとか飯田さんとか、もっとほかのところに取り組んだ成果が少しずつ出てまいりと思っておりますので、そのあたりを御報告できるような形になってくるのではないかなというふうに思っています。

ちょっとそういったことを今後積み上げていって、5年後ぐらいには、こういったことをプロフィールつくったりとか、評価をしたりとか自分たちで振り返りをするとか、そういったことができているところが先進と言われているというか、成熟度が高いと言われているか、そういったところにつながるような議会になっていくところに貢献できればなというふうに今頑張っているところでございます。ちょっとすみません。こんな答えになります、よろしいでしょうか。

○田中氏 成果はお約束できるものではないという

のが素直なお答えになってしまいます。まだ取組を議会として正式に取り入れていただいたのが会津若松市議会様と飯田市議会様の2つだけです。で、まだ今の時点では一回しした成果が出ていないという状況でございます。

また、日頃のふだんの議会活動もそれなりのかんりの御負担があるというのは、我々も承知をしておるところでございます。これを入れることが、それなりに労力がかかってまいりますので、御懸念もごもつともなところかと思えます。ですので、これが正解ということではなしに、あくまで我々のほうで基本的な取組方の仕組みとして考えておるんですけれども、これをアレンジをしていただくというのも1つの方法でございます。

例えば、会津若松市議会様などは、まず、議会の中での評価の仕組みでお使いいただいた後に、市民の評価委員の方々も交えながら、ある意味では、議会に対する理解を共有できるような市民と共有できるような仕掛けとして、これを位置づけてお使いいただくというような御検討もされているとお伺いしております。

飯田市議会様の場合は、先ほど鎌田からも御説明いたしました。飯田の場合は、もう議会基本条例がないので、自治基本条例が議会活動のよりどころになるような機関になるんですけれども、自治基本条例ができてから10年近く経過をした。改めて、その議会活動の歩みを振り返る機会にこの議会評価モデルを使う。ですから、毎年毎年の議会活動の検証をするような道具ではなくて、ある意味、長期のスパンで議会の歩みを振り返る仕掛けとしてお取組をいただくと。そんな使い分けをしていただいている。そういう例もございますので、御負担がまた増えてしまうというのは確かに我々も懸念しているところですので、やり方等はそういった議論も踏まえて御相談できればな

思っております。

○齊藤委員長 ほかありますか。

○山形委員 この議会プロフィールというのを見せていただいて、基本データみたいなのは大体書けると思うんですが、ミッションとビジョンということで、現在の姿ということで、うちの26人の議員全ての意見を集約してまとめるということになると、かなりの労力と時間がかかると思うんです。生産性本部の方々は、これをまとめるに当たってどれぐらいかかって、どういうふうな形でまとめていくのがいいのかなど。ごく一部の方がやっている、やっぱり一部の人に偏って少数の方の意見が反映されない。

先ほども言いましたけれども、入りたての議員さんも何をやっているかさっぱり分からない。このプロフィールつくるだけで、もう目いっぱいになってしまうと逆に負担になってしまって、本来の意味からかなり逸脱するのではないかなと思うんですが、飯田市議会さんと今会津若松市議会さんはつくったということなんです。どれぐらいの時間をかけて、どういうふうなやり方でまとめたのかなど。もう一度聞かせていただけますか。

○鎌田氏 分かりました。議会プロフィールまとめるのは、今おっしゃったとおり、それなりにやっぱり労力と時間がかかります。特定の方が分かる方が書けば、それはそれで1週間もあれば書けるとかあるんですけれども、そういうものでもありませんので、やっぱりその中身をちゃんと議論をしていただいて、合意していただくという必要があると思いますので、それなりに時間がかかると思っております。

飯田市議会さんの取組の例でいくと、議会プロフィールが大体出来上がるまで、まだ、これこれから取りかかることですが、予定しているのはやっぱり4か月ぐらいかけてつくる、最終的

に。全体の合意でいくと、半年といかないですけども、約半年弱ぐらいの感じで議会プロフィール、全体合意と議会全体での合意というようなことを目指して今取り組みをしています。

それで、飯田市議会さん全員でお取組をすることなんですけれども、ただ全員でいきなりやっても、まとめるとかそういったことも難しいので、あちらではグループに分かれて、それぞれ議論をいただくという形にしています。グループには、それぞれグループリーダーというのがいて、そのリーダーが統括をしていただいて、そのリーダーが集まっていたいで統括会議を開いて、その中ですり合わせを行うと。そのすり合わせを行ったものを全員協議会のほうにかけて、また意見交換、そういった討議を行った上で、最終的には議運のほうで確定をして全体のという形に持っていくという形で会議体をつくっていますね。という形です。そこで、いわゆるベテラン議員の方とそれから新しい議員の方、やっぱり中身も知識ですとか経験の差がありますので、グループ内については、ベテランの方から新人の方まで、役職ある方ない方含めて、全部その壁を取っ払って全員入って、それぞれバランスよく編成をつくっています。その中でリーダーの人については、若手の人、サブリーダーについても中堅、ごめんなさい。リーダーは中堅クラス、サブリーダーの方は、期の新しい方という形で置いております。それ以外に、やっぱり過去どうだったとか、具体的にもっとこれができる経緯が知りたいといったことがありますので、ベテランの方がその全体の会議でアドバイザーというような形で統括をする方、相談役という方も設けています。それについては議長、副議長とあと議会改革委員会がありますので、その正副議長がコミットするというような形で今進めている段階であります。

それで、なぜ若手の方とか中堅の方をリーダーにしているかというのは、今後、その方がまた4年とかずっと回していく中で、今後中心になっていっていただく。それを引き継いでいってもらう必要があるということで、ベテランの方が仕切るということではなくて、中堅の方、若手の方に知識、それから勉強ということを含めて、飯田市議会さんでは議員教育とおっしゃっていただけけれども、議長さんがそこで学んでいただいて、ちょっと汗をかいていただくということが今後の伸びしろにつながっていくというようなことをおっしゃっていただいて取り組んでいただいているというような形でございます。

○山形委員 最初、標準版ということで40項目ということで、これかなりの容量だと思って、そこから要約版で15項目になって最終的には16項目になりました。削られたというふうなわけではないですけども、24項目が削除されて、その16項目を選定ですよ。そこはどういうところを基準として項目を設けたのか。いろいろな40もあると私もちょっと多いのかなと気はしたんですが、その16項目に至った経緯みたいなのを教えていただけますか。

○鎌田氏 基本的には5つの視点という形で、まず、どこから見ていくかというところで、それぞれ我々カテゴリーとか、そんな呼び方したりするんですけども、その中で議会が機能というのを、その視点に沿って割り振っていきました。その中で基本的なこれは外しちゃまずいよねと。議会の機能はこれは絶対確認しなければいけないということだけを残したのが、その15項目のももとの質問項目でございます。40項目のほうですね、もっとさらにそれを細分化というか、細かい具体的な行動ですとか、仕組みとか、そういうところはこんなことできていたらいいいねと。こういうこと

をやってもらったらすごくよくなるよねとかいうところまで含めた細分化をしたというのが40項目になりますので、枝の部分と言いますかね。骨格という部分を16項目でつくらせていただいて、40項目のほうはそれに飾り、飾りという言い方もなんですけれども、葉っぱがとかいろんなものがついてあるというのが40項目でございます。

1個増えて16になったのは、市民教育のところ当初入っていませんでした。ただ、議論していく中で、市民教育というのに議会が取り組むというのも、これから大事だということになりまして、そこを追加させていただいたということで16項目に変更させていただいた経緯がございます。

○齊藤委員長 じゃ、副議長、どうぞ。

○相馬副議長 いいですか。

那須塩原市議会の事務事業評価のPDCAサイクルシートというのは見ていただいていると思うので、あれだと思うんですが、この議会プロフィールを見て、うちのサイクルシートで十分賅える部分と1点だけ分からないところが、この社会情勢社会環境の変化というところに、こういうふうな記載をするようなところで、世界や我が国の変化、それから地域の住民のニーズの変化という記載をするところがあると思うんですが、これ世界や我が国の変化というのをどういう視点でどういうふうな一般的というか、今やっていただいたところは、どんなことが記載されているのか。もしちょっと先入観入っちゃうとまずいとは思いますが、どういう視点でこれを記入するのか。

○鎌田氏 はい、分かりました。

こちらのシートの社会環境の変化と今後の議会との社会環境の変化というところなんです、ここは制約条件というふうにつけていて、要は自分たちで特に世界や我が国の変化というところは、何か自分たちがすぐやって、手をつけて変化でき

るかという、なかなか難しいというところですね。それが足かせになったりとか、あと避けることができなかつたりとか。そういったようなことをここで書いていただいて、それを考慮した上で、じゃ、自分たちがこうしていこうとか、こういうことがまず法律を改正したりとか、社会の常識を改めればできるよねというような議論をしていただくというために設けさせていただいたものであります。割と理想論で話をしてしまうと、何でもこういうことは、何でもこういうふうに変えていこうとか、こういうふうにしようとかと話は弾むと思うんですけども、現実問題として、それができるのということがありますので、それを踏まえるために、この項目をつくっています。

例えば、飯田市議会さんなんかでいくと、世界や我が国の変化というところで、ここにリニアが入ってきます。飯田市議会さんなんかは、自分たちでいろんな議論ありますけれども、ただこれは国としてリニアになるということで決まったので、止められないということがありますので、それに合わせてまちづくりを考えれば、いろんな社会環境の変化が増えてきますので、それをちゃんとやっていきましょうとか、あと、経済環境が変わってくるとか、変な話、現在コロナとか、そういったことを世界や我が国の変化と、その前はオリンピックあるからとかありましたけれども、そんなようなことが(1)のほうで(2)のほうは、これはもちろん、これは住民の皆様の声ということで捉えていただければと思いますので、住民の皆様との意見交換会、そこのところからとか、入ってきたものをですね。じゃ、どういうふうにつけていこうかということで、実際に課題を抽出することになって、考え方のベースとしていただくというふうなことになります。

○相馬副議長 その間にあるこの想定される時期と

いう、これは上が2040と書いてあって、下が現在となっていますが、これもどういうふうに見たらいいのか。考え方がよく分からないんですが。

○鎌田氏 これはですね、想定される時期というのは、実は皆様の議会で決めていただいているというふうには思っています。何も書かないと困るよねというのはちょっとこれをつくっている部分ありまして、当面自治の問題としてというんですかね、自治体の問題として2040年という国の指針等もありますので、一つそこまでは何となく形が出ているので、上限はそれぐらいかなということで、これは何もないと困るからということで入れさせていただいたものでありますので、これを考えなければいけないということではないので、総合計画とかリンクしていただくという考え方もありますし、選挙のタイミングでその倍数でどういうふうに見ていこうとか、そういう設定もあるかと思えます。長期で10年ぐらいとかそういう感じで10年、8年、12年とか、そういう見方、それからもうちょっと短くて、今は変化が激しいから五、六年がいいんじゃないのとか、それは皆様お話しをさせていただき中で、ある程度見ていただければいいかなというふうに思っています。説明が足りずに申し訳ありませんでした。

○齊藤委員長 大丈夫ですか。ほかにありますか。

○小島委員 私もこのプロフィールとか、あれと今那須塩原市議会でやっているP D C Aサイクルで議会改革をやっているわけですね。それとの関連が一番重要かなと思って、大部分がP D C Aサイクルの中に入っているのかなと思ったんですが、そういう中で、ここのプロフィールとか成熟度達成という評価、これはP D C Aの中にどういう効果が発出されて、議会改革の効果につながってくるのかというのがちょっと見えてこないところがあるんですよね。このP D C Aサイクルだけで、

もう実際には議会改革は毎回進めているわけですよ。その中で、この今度のプロフィールとかそういうもので何を変えるともっとよくなるのかという、そこのところがよく見えてこない。そこら辺、どういうふうにしたらいいんですかね。

○鎌田氏 そうですね。今、P D C Aサイクル回していただいて評価していただいていると思います。条例の確認をしてそれでできているできていないというところから、じゃ、何ができていないんだというところで、今、P D C Aサイクルに取り組んでいらっしゃるといふふうに理解させていただいております。多分そこところが当たって、このシートでいくと、4年間の活動目標とか、具体的なそこところがP D C Aサイクルと同化していただいている部分になると思いますので、そういった意味では、親和性とかリンクしているところがあります。

我々から見て、多分こういったプロフィールとかこういうのを取り組んでいただいて、そこにプラスになってくるのかなというふうに思っているのは、全体として、じゃ議会がちょっと一番初め、冒頭のところです。申し訳ありません。どちらどの方向に向かっていっているのか。どこに行こうとしているのかというのを、皆さんでその目的地を、向かっている方向を皆さんであっただねということを決めてもらえれば、そのP D C Aサイクルを回していることが、よりもっと具体的になってくる。実際の活動、行動が議会が成熟度を増していくところにつながってくるのではないかとこのように考えています。

P D C Aサイクルは、その項目はよくなるんだけれども、じゃ、それを回していくと、具体的に何につながるのかという部分が、多分ちょっと皆さんそれぞれ頭の中に描いている方向性とか違っているのかなと思っています。なので、その何のた

めにこれをやって、このP D C Aを回しているかというところが多分できてくると、よりそれをやる意味というのが分かってくると思うし、皆さんそれぞれ議員の皆さんのそれぞれが腹落ちしてくるかなど。このP D C Aシート回さなきゃいけないよと、これ評価して書かなきゃいけないよと。毎年大変だなというところが、何のためにこれをやっているかというところが見えてくると、これはこういう活動につながるから、この取組大事なんだとか、これできているから、じゃ、もうちょっとレベルを高くするために何をしたらいいとか、そういうところもステップにつなげられるかと思しますので、その方向性、どっちに向かって行こうかというところに当たるものがこのプロフィールだと思っているので、これをやっていることをやりながらその方向性を決めていただく。そんなことでいいのかなと思います。

成熟度の評価のほうなんですけれども、これは、田中のほうからも説明しましたけれども、毎年送っていただく必要もないと思っています。極端な話をする、皆様の任期が終わる最終年度、4年目ですね。ここのところで議会全体として、この4年間どうだったのかなということを振り返っていただいて、それを見ていただく。その結果、よかったことをアピールしていただいて、あと、これはぜひ続けてもらいたいとか、こういう活動は次の期の議員さんに、これは申し送りをして継続して行っていただきたいというのは残していただいて、それを申し送りということをしてつなげていく。そんなことをしていただければ、多分いいのかなと思います。そういう意味では、4年に1回、議会プロフィールというのを更新していただくと。期が変わるごとに更新していただいて、4年後にはそれがどうなったかを見ていただいて、また次へバトンタッチしていく。そのような成熟

度評価モデル自体は使い方をしていただいて、日常の活動については、P D C Aシートですていくと。自分たちでこうやろうと、こういう目標をつくろうというところでいけているかというのはチェックしていただく。そんな使い分けの仕方というのものもあるかなと思います。これもやってあれもやってというのは大変だと思いますので、そこはできるだけ絞り込んでいくのがいいかと思います。ただ初めに、シートをつくるときはちょっと労力がかかりますというのは、ちょっとお時間が皆さん支援していただいて、そういったつくるための期間、ちょっとつくっていただく必要があるかなと思います。

○田中氏 ちょっとそこよろしいですか。今の御質問というのが、P D C Aサイクルシートとの使い分けといいますか、どうつけられるかというそういうような御関心もあつての御質問だと思うんですが、この成熟度評価モデルの評価の仕組みというのが評価そのもの、検証そのものを意図した仕組みではないんですね。何かというと、これが政策のサイクルを回すという発想がそもそもでありまして、そのために議会活動を見直すような仕組みに必要ということでできている部分ということでございます。

もう私が申し上げることもなく、会津若松も飯田市議会もその政策サイクルという議会の中での期間設計が非常に優れているというそういう事例でありました。そういうところと一緒に、もし御関心があればということですが、政策サイクルを回す上での評価制度という位置づけをしてお取り組みいただくとすれば、それは既存のP D C Aの仕組みとは別の価値というのが出てくるのかなと思うんです。要は同じモデルを使いますので、何でそれはひとつ、今回もし新たにお取り組みいただくとすればメリットになるところかなと

思うんですけれども、ただ御負担も当然出てくるかと思しますので、決して御無理にはあれなんでしょうけれども。

○齊藤委員長 そのほか、ございますか。

はい、どうぞ副委員長。

○星副委員長 そうすると、先ほどの説明であれなんでしょうけれども、この地方議会成熟度評価モデルのワークシート、それぞれ自分たちで個々人で評価をして、それをまとめるということだとは思いますが、ここの項目というところに関しては、そのPDCAサイクル、要は自分たちで考えたものをここに当て込んでいっても別にそれは構わないという。要は那須塩原モデルバージョンみたいなのを考えても、それはそれでいいですよというようなことでも大丈夫なんではないでしょうか。

○鎌田氏 大丈夫です。16項目、これ標準的なものを並べてありますので、この内容だったら那須塩原市だったら今やっているこの活動だよねというのがあって、それをその項目に入れていただいて、那須塩原市議会バージョンというような形でアレンジしていただくというので問題ないです。評価の基準のところ、ちょっと多少自分たちでそこは考えていかなきゃいけないところがあるんですけれども、中身について、活動をやっていることをそこで当てはめて、その中に埋め込むというようなやり方していただいて大丈夫です。会津若松も標準版じゃなくてもかなりその、まあまあやっているわけではなくて、幾つかは自分たちに合うような形のものに差し替えてつくっています。

○田中氏 おっしゃるように、モデルの項目を修正いただいております。ケースもありますし、あとは御相談いただいたのは、条例検証の仕組みとして、これを使いたいという御相談をいただいたことがありまして、議会基本条例とかも

何か検証の手法までの検証することを書いていても検証の手法まで書き込んではないと思うんですね。確かに逐条で検証していくというのが1つの方法だと思うんですけれども、例えば、この項目に成熟度モデルの項目に条文をちょっとぶら下げていただいて、条例検証に応用いただくと。そういう方法は、まず御提案というか、検討したことはございます。まだ、実際取り組んではないんですけれども、そんな方法もありますねということはお話をいたしました。

○鎌田氏 このモデルの使い方も16項目ありますけれども、うちでは16個多いから削って、こことこことこを見えていった。こことこの中身だけは外したくないので、それを追いかけていくとか、そういった使い方をしていただけたらいいと思います。なので、PDCAサイクル回しているものがあって、そこに不足しているものももしあったら、こちらでそれを選んで、そこを拾って逆にそれだけをこのシートの形で成熟度という形と追いかけていただくといったやり方もあるかと思うので、使い方はいろいろかなと思います。このとおりにやるということだけでもありませんので、ただ、このとおりにやっていただくと、将来的に使っていただくところが増えた場合に、同じ設問で同じ評価をするとどうなるかというのを比較できると将来的にはそんなことも我々も考えてはいるんですけれども、ただ、このとおりにやるのが全てではないので、この使いやすいようにアレンジしていただくというふうに我々は考えております。あとは、そのたたき台、土台ということで御理解いただければいいなと思います。

○齊藤委員長 そのほかございますか。

[発言する人なし]

○齊藤委員長 そうしたらすみません。

私なんですけれども、これやっぱり議会プロフ

ールが最初ハードルになるのかなと思うところ  
と、説明の内容につきましては、抽象的過ぎずな  
おかつ具体的過ぎずで、すごい抽象的な言い方  
になってしまうんですけども、自分たちができ  
ることを書いたプロフィールをつくと基本的に  
できているだろうと話にもなるということと、私  
は2年前、1年半前、その副委員長で聞かせて  
もらったときに、じゃ、例えば、これが成熟  
すれば、僕らの最終目的というのは、市民  
の関心度ですから。投票率が上がるん  
ですかみたいな具体的な話、質問したのは  
僕も覚えている。ただ議会側として、議  
会改革を幾ら進めても、市民への理解とい  
うものはなかなか深まんないですよ。な  
ので、例えば、この成熟シートが市民に  
分かりやすい冊子になるようなそんな仕  
組みたいなのは、今、生産性本部さん  
のほうでは考えていないのかなと、要は  
これだけ出しても分かんないし、自分  
たちが星3つつけても市民にじゃ評価  
してもらおうといったとしても、その  
市民に説明をしないと何をやって  
いるんですかという話になってしまう  
ですよ。なので、僕たちは自分  
たちでPDCAサイクル回すのに  
みんな結構疲れてきちゃって、ぐる  
ぐるハムスターのように回って  
いますから。次回どうするとい  
うものを今修正しながらつけて  
いるんですけども、その評価に  
結果満足しているのかどうか  
ではなくて、間違いなく改革は  
進んでいて、シャープネスにな  
ったところもあれば、もうちょ  
とがつつり思ったところもある  
んですけども、そうやって1個  
1個進んでいる中のものを、  
これを使ってその市民向けに  
どうアプローチできるかなとい  
うところがもうちょっとある  
といいなと今思っていたんです  
けれども、その辺は、考えた  
ことあるのかなと。

○鎌田氏 そうですね。今フォーマットとか、  
そういった意味では、フォーマットとか  
形式という形

で何か持っているわけではないんですが、  
1つの方法としては、我々考えている  
ところでは、市民との意見交換会、議  
会報告会の中で、こういうことを  
取り組んでやっていきますよとい  
うところを御報告させていただいて、  
その後、それどうなったのかとい  
うのは、やっぱりその場で御説明  
をするということで、皆さんの  
ちゃんと声を聴いて、それをスク  
リーニングした結果、こういう活  
動で今こんなふう動いていますと。  
それは議会としての改革の一環  
として、こういう取組をしています  
ということを御説明いただくとい  
うところで御活用いただくとい  
うやり方が1つと、あと会津若  
松さんがやっているんですが、毎  
年出しているわけじゃないん  
ですけども、議会白書みたいな形  
で評価の内容、そこでこんなふう  
な取組、議会としてはこういう  
考えでこういうふうやっていき  
ましょうと。皆さんの御意見を  
伺って、こういったことを改革  
してここまでいきたいという  
ふうなことを設定して取り組  
みましたと。その結果、こう  
なって、ここまで進められて  
いますというふうな議会白書  
みたいなことで、市民の皆  
さんに御報告していることが  
ありますので、そのような形  
で最終報告を市民の皆さん、  
自分たちで評価して終わり  
ということではなくて、市民  
の皆さんにそれを報告して  
いただくということで、信  
頼を得ているという観点  
なんですけれども、1つのツ  
ールとして広報広聴のツ  
ールの1つとして使って  
いただくことがあるかな  
というふうに思っています。

また、会津市議会さんが  
変わっていることが1つ  
ありまして、会津は広報  
広聴のツールとして使  
おうということと  
とりおきながら進  
めているんです  
けれども、議会が  
市に対して附帯  
意見をつけた  
りとか、それ  
から政策提案  
をしたりと、  
そういった  
ことが、それ  
がどれくらい  
実行されて  
いるかと



いうことを自分たちで確認をして、議会改革を進めています。しいてはこんなふうな提案しました。その結果、こういう提案した結果、これだけ達成されました。そういうところを市のほうに執行部のほうに議会からアンケートを取って、その結果を自分たちの取組としたり、広報として披露していくということを進めると。そうすると、議会がやった活動がどうなったか、その成果も含めて見えるというようなそんなことを会津は考えておられて、そうすると、我々も執行機関側にアンケートを取ると、そういう発想なかったんですけども、そんなようなことと併せて成果を伝えていくと。住民の方に住民福祉の向上という部分が見えるようになるんじゃないかということを考えておられるというので、そんなようなやり方というものもあるんだなというふうに、ちょっとそれは我々も勉強させていただきました。

○齊藤委員長 ありがとうございます。

今、言ってくれたのは、結局その先を私たちも見てやっていかないと、この新しい機能というよりは、先ほど説明あったとおり、ただ重荷のものになってしまう。だから成熟度は、その議員個人がまず議会改革を分かっていたかなければ、全くもって例えば26人いる中で10人だけでやっていたら、あと16人の人は全く関係ないわけですから。それで成熟度が図られるのかというと、形上はやっているでしょうけれども、議員16人さんは全然関心持っていないわけですから。議員個人としては全然成熟しないわけですね。だから、どっちにもかかるようなシートであって、なおかつ市民に提案もしつつ、先ほど鎌田さんが言ってくれた話も私たちも例えば広聴広報の委員長から上がってきたものをどうするかと。その後どうするかというところで結構止まってみたり、形になってみたりというのをつぎはぎでやっている状態なんで

すね。それは確かにやっていくべきなんですけれども、ここの評価モデルにそれをどこに当て込むと、それが惜しかったね、残念だったねというものというものが多分つくり上げないと入ってこないのかなと思ってしまっていて、議会改革を進めるためのPDCAサイクルシートとやっているものに対して自分たちで課題を見つけてここに埋め込んでいく評価シートはまた別物になってしまうのかなと今聞いていて思ったんですけども、がっちゃにしてしまうと、形を変えていく改革みたいな、要はやるという改革ばかりやっていて、おっしゃるとおりやったもの今どうなってるのというところのあれがないんですね。同じPDCAでありながら、どちらかという定性性というよりは定量性なので先ほど説明あったとおりに、2回やったからBでいいよねとかとやっているんですよ、実際は。言われたとおり、じゃ、議会プロフィールに関しても、2040年まではいかにしても2030年までに那須塩原市議会議員提案が活発になって、いっぱい政策提案が通るようなビジョンを書いたとするじゃないですか。それだって指標をはかるのはやっぱり本数になってしまうのかなと思ってみたり、だから、何を伝えて皆さんがそこに乗かってうまく形描いていけるのかなと。会津市議会さんみたいな人ともちょっと違う人種にしか思えないので、行け行けどんどんなんでしょうから。あれなんでしょうけれども、だから、その部分がより見えてくると、ここの書いてある評価がいいのかなということを、1ついいなと思ったのはその丸をつける段階がさっきシノジルシで5、4、3、2、1みたいなやっているけれども、結果出てないんだという評価とかがあるというのは、ちょっといいなと思ったんですけども、だから、どうしていったらいいでしょうね。

○鎌田氏 なかなか難しい御質問。

○齊藤委員長 だから、これこのシート、これを参考にしてPDCAのほうにくっつけていくとなると、2つの概念が働くので、やろうと思ってやってきた反省とその前にやったものどうなったみたいな2つが回るのかなと今思って聞いていたんですけども。

○鎌田氏 ただ、PDCAのほうは、議会改革の形式面ですか、そういった整備のところですごい効果を出していくんです。どちらかというと、この成熟度評価モデルというほうについては、実質的な部分、要は中身がどうなんだというところを問うているところがあるので、PDCAシートの質問項目と合致するところもあれば、かけ離れるところ、要はもっと上の概念でふわっとした感じのところもあったりするので、そのところをどう見ていくかというところが1つのポイントで制度面のところがまだ不足があるということであれば、今少しPDCAということで見えていくという必要があると思います。ただ、もうPDCA回して、それで制度面の部分はかなりな部分改善できていて、それなりの高い水準になっているということであるのであれば、PDCAで見えていくということが必要最小限、まだ課題が解決できていないところというところに絞っていただいて、もう少し、その中身の部分が今度はどうなんだというところにシフトしていったというような考え方をお持ちになられても、そこはいいのかなというふうに今お話を聞いていて思いました。

PDCAを回していれば、それはそれでよくなるかという、よくなる部分もありますし、最終的には形骸化すると。回すことが目的になるところも出てきてしまうので、その場合には、何でそれやっているのと。それやったらどうなるのかという、もう少し上の考え方が必要になって

きますので、だから、そのところこういった例えば成熟度モデルを使って移行していくのか。もしくは成熟度評価モデルの考え方をPDCAシートを回しているところの中にその概念を入れて、PDCAシートを直していくのか。道としては、そういう方向性が考えられるのかなというような感じだと思います。

あと、田中も申しましたけれども、個別の内容の活動を評価するというのに主軸でこういったのがこちらの評価モデルではなくて、政策サイクルを回していきましようというところで評価の主軸を置いているのが、この評価モデルでございますので、そのところの区分けをどちらを優先的に見ていくかとか、いうところに1つの判断基準を持っていくような形になるかと思えます。こちらのモデルについては、それぞれの活動がぶつぶつ切れて1個1個終わっていくのではなくて、それが住民の皆さんの意見から最終的には決算審議までつながっていくというようなそこがちゃんと動いていますかというところを見ましようというような主軸がありますので、その違いというところを御理解していただいた上で、活用方法というのを御検討いただくということが1つにあるのかなと1つポイントかなというふうに考えます。

○齊藤委員長 最後なんですけれども、プロフィールは何年設定でもいいということで先ほどおっしゃっていただいて、この評価モデル自体も実際条例の見直しだとうちらも5年に一度とかと言って返されてしまうんですけども、これ書いておいて、その年その年にやらなければいけないものも入ってきてしまうんじゃないのか。通年で長く3年スパンで見るとかというものとごちゃごちゃに結構組んでいるんですかね。そのよその会津さんとかは、1年に1回はそれなりの評価はしているんですかね。

○鎌田氏 あまり定期的に1年に1回必ず評価とかということではあまりそこまでは考えていなくて、ある程度やっぱり活動していただかないと成果とか確かに出てこないと思ったので、短期で見てもまだまだ取組中というだけでありますので、そこは割と長期スパンというようなイメージが、会津さんも多分2年に中間で議会の委員会とかがメンバー代わりますね。議長も代わったりとかしますので、その中間というところで4年間の折り返しのところの中間地点で、どこまで来たのかということと、最終的に4年後にどこまで到達できたかということを見ていこうというような、それぐらいなタイムスパンを持っておられる感じです。

○田中氏 すみせん。ちょっと補足させていただきますが、ちょっと1つ前の御質問についてなんですけれども、取組方そのものを振り返るというP D C Aのサイクルがあると思うんですね。それと別に取り組むことを考えるというサイクルがあると思うんですね。今回我々その地方議会成熟度評価モデルの御説明ということでお招きいただいたんですが、もう平たく言えば、成熟度評価は横に置いておいて、この議会プロフィールだけつくっていただく、そういう使い方ももちろんあり得ると思っております。

そうなると、その既存のP D C Aの評価の仕組みというの御活用いただきながら、2任期とかでこの議会が何を目標しているかということを考えていただける。

あと先ほど、ちょっとどれぐらいの時間をかけてという御質問をいただきましたが、例えば、飯田の場合は、来年度の来年度末ぐらいにかけて取組進んでいくんですが、大半の時間をこの議会プロフィールの作成に充てていただくというようなスケジュールの調整をいただいています。その中でも、これはもともと御覧いただければお分かり

いただけるんですが、例えば、自治基本条例であったり議会基本条例であったり、既にもう御議論いただいている議会の規範であったり理念であったり、そういうものもあると思うんですね。なので、それを改めてちょっと読み返していただいて理解を深めていただくと。そういう使い方もできるのかなと思っております。この世の中の変化というのは、我々から情報の提供をしたりもできると思いますので、ある意味、ちょっと振り返る1枚もののシートとして、この議会プロフィールだけつくっていただくとか、そんな方法も1つかなと、今お話をお伺いして感じました。

○齊藤委員長 ありがとうございます。

じゃ、大体お聞きになりましたかね。ではすみません。なかなか理解しようがあつてうまく自分たちの現実とぶつけて考えていきたくなくなってしまうので、こういう質問になってしまうんですけれども、基本的にまた仕事するのかみたいな風潮が出てきているところを、どうやって自分たちがやっているのを多分市民からの反応であつたりが見えてくると、やっけてよかったというところがあるんですけれども、まだそういうのがちょっと見えないので、見えない中、どんどん穴掘っていてもどこへ行ったか分かんないみたいなのもあるので、いろいろ参考にしながら、今気づいたのは、P D C Aで出ていったものを捨てるシステムがないなと思ったから、そういう点ではすごく使えるのかなと思ってみたり、やろうとすることをここに書くんじゃなくて、やってみて終わった後に、抜き出したものの検証をするのがいいのかなとは思いました。

あとは、成熟度のその成熟の捉え方ですね。そのところをどこにかかっているのかをもうちょっと教えていただけるといいのかなと思いました。抽象的になってしまうので、現在の姿もそうです

けれども、じゃ、今後もといっても同じことをや  
っぱり書くやり方になってしまうでしょうし、入  
ってくるとしたら議員がいなくなって永年議員と  
かになってしまうですね。もう議員人間いらな  
いみたいになって、例えばですけども、そうい  
った何か超革新的なイメージで書くのではなくて、  
よりこの今いる人たちの中で現実的に将来どうい  
った形になっていけばいいのかという未来像を取  
りつつ、10年戻してやっていくわけですから。そ  
うすると、10年分つくってしまうと、何だこれと  
いう8年後の議員がいたりとかなくなってから。  
どういうふうはこのプロフィールを改正していく  
のがいいのかなと思いながら、今ちょっと聞かし  
てもらったんですけども、分かりました。

では、引き続き議運のほうでもいろいろと協議  
させていただきたいと思いますので、本日はあり  
がとうございました。

○齊藤委員長 じゃ、今、質問等が終わったので、  
その他ですね。その他は何かありますか。

〔発言する人なし〕

○齊藤委員長 何か事務局ありますか。

〔「別に」と言う人あり〕

○齊藤委員長 事務局から質疑ありませんでした。

質問なかったですね。

〔「大丈夫です」と言う人あり〕

○齊藤委員長 分かりました。

じゃ、その他のほうも閉じさせていただきます。



#### ◎閉会の宣告

○齊藤委員長 以上で議会運営委員会のほうを閉じ  
させていただきます。

お疲れさまでした。